

問 17 市民協働のまちづくりについて、ご意見がありましたらお聞かせください。

協働以前の問題として、地域の課題を認識し、それを「なんとかしたい!」と感じる人が増えることが必要であり、そのためには、地域への愛着、地元愛を育てていくことが重要であると考えます。

<提案・要望>

- ・ 「なんとかしたい!」と思う人が個人であった(団体に所属していない)場合、まず相談に行くところが、ボランティア・市民活動サポートセンターであると思われるが、センターの認知度があまりにも低いと感じます。各公民館・コミセンおよび多くの人の目に触れる場所に、センターの紹介を設置することを提案します。
- ・ ボランティア・市民活動サポートセンターのパンフレットを改善していただくことを強く要望します。実際に活動している人達の、やりがい、楽しさなどが伝わるものに!
- ・ 社会参加・ボランティアを促す気運を高めていくことが必要であると考えます。誰でも気軽に参加しやすい「ボランティアまつり」のようなイベント(一般の人への啓発、団体間交流、企業から市民活動への寄付・参加を募る場)、定年退職者の「地域デビュー講座」などの開催を要望します。
- ・ 市民活動が活発に行われていると感じられること、また、各団体からの情報発信を目的として、市内各種行事の情報がすべて得られる場所が必要であると感じます。
- ・ 市民提案型協働事業について、現状は、市民活動への助成事業となっている印象です。
①応募を考えている団体による企画相談会(関係課とどのような協働が可能か、また盛り込んで欲しい視点・課題などを協議) ②採用審査 ③中間報告会 ④終了発表会 ⑤協働の視点での優良事業の選定→「協働マイスター」→次年度の審査員・相談役に ①のような、実践・研修・人材育成を兼ねたサイクル形成により、協働のレベルアップを図っていくことが望ましいのではないのでしょうか。
- ・ 協働は、あくまでも課題解決のための手段・方法であり、趣味のサークルなどの市民団体においては、それほど重視されていないものと捉えています。地域の居場所づくりや、子育て支援などの場面において、趣味サークルの方々に公演・指導に来ていただくような協働、また、例えば、趣味サークルの方々に地域の単身高齢者の方を誘っていただく等、より公共的な機能を担っていただく形の協働を促していく必要があるものと考えます。そのために、解決すべき課題の共有、団体バンク(人材バンク)の

情報登録と地域への情報提供を要望します。

- ・ 協働は手段・方法であるため、「協働」という言葉自体が普及したかどうかは重要ではありません。前段で提案しております「ボランティアまつり」等のような普及啓発を行う際には、「市民協働」という名称よりも、よりイメージしやすい表現を用いることを提案します。 ※「『協働』から『総働』へ」ということも言われるようになってきています。

<質問>

- ・ 今回の「市民協働のまちづくり」に関するアンケートは、住民組織、子育てサロン、いきいきサロンなどにも行っておられるのでしょうか？
- ・ 多くの職員さんが、協働をテーマとした研修を受けておられますが、市民活動団体にどうあってほしいと考えておられるのでしょうか？協働が必要という方針で、研修を実施、受講しておられるのでしょうかから、どういう市民活動団体が育っていく必要があるのかという視点も必要だと思います。
- ・ 市民提案型協働事業について、採用された各事業への行政としての関わり方；協働を、どのように評価されているのでしょうか？